

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すいっち		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お手本となるような年上の児童とかわることができること。	年上の児童とグループを組んで活動することで、年上の子を見本にして動いたり異年齢同士でコミュニケーションを取ることができる。	自由時間等で自分から他児とかわれるように、遊びの場を提供したり話しかけられるように支援する。
2	保育士の資格を持った職員が常駐しているので、年齢に合わせた支援が行えること。	保育士の専門性を生かして、日常の支援や療育を年齢に合わせて行っている。幼児に合わせた教材や教具を準備している。	研修や自己研鑽に努めて、様々な特性をもつ幼児に対応できるようにする。
3	アスレチック教室や事業所内に設置している運動器具などで、身体の使い方を学んだりストレスを発散できるような取り組みを行っていること。	土曜日に外部から運動専門のトレーナーを招き、アスレチック教室を開催している。事業所内にボルダリングの設備があり、楽しみながら体を動かしてストレス発散に繋がっている。会話や遊び等を通じてストレスの発散に繋がっている。	アスレチック教室で学校の体育種目に合わせた指導を取り入れ、バスケットや鉄棒等を実施し、体の上手な動かし方を学び、自信に繋げて園生活や就学後の学校生活でも活かせるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	タイミングによって、満員で固定の曜日で利用を承ることができない場合があること。空きができるまでキャンセル待ちでのご利用になってしまう場合があること。	新規の利用希望や利用日数を増やしたい、という子ども・保護者が増えている。	求める療育の方向性を保護者と確認し、ニーズに合う姉妹事業所を案内するよう取り組んでいく。
2	他害の度合いによって受け入れが難しい場合があること。	ワンフロアの事業所であり、他児の安全を確保するのが難しい場合に受け入れが難しい。	今後事業所を新設する場合は、受け入れができるような間取りを検討していく。
3	医療を必要とする子どもの受け入れができないこと。	看護師等医療行為に対応できる職員がいない。	必要に応じて検討する。